

旧第四銀行住吉町支店

新潟市中央区

10月の終わりの新潟市は良く晴れていた。鉄筋コンクリートに花崗岩をまとった格式ある銀行は、夏の名残りを思わせる強い日射しを浴びて、外壁にイオニア式列柱の影を落としていた。2002年に役割を終えた「旧第四銀行住吉町支店」は、翌年に移築復元された新潟市歴史文化博物館みなとぴあ敷地内で、そんな静かな佇まいを見せていた。同銀行は1927年（昭和2年）、米国株式取引所や証券会社、銀行などが立ち並ぶ新潟経済の中心的な地域、新潟市中央区住吉町に開設され、活況を呈していた。新古典主義の建築様式は、当時の栄光を物語っている。

設計したのは、新潟市出身で新潟市公会堂などを手掛けた長谷川龍雄。文部技官として高校の建築事務などに従事した後、設計事務所を開いている。鉄筋コンクリート造・2階一部3階建て。直線が強調された外観、正面のイオニア式列柱とその間に設けられたアーチ形の3つの大きな窓のデザインは、シンプルで美しい。外壁には花崗岩が積み上げられ、コンクリート造だが石造りのように見える。

内部は、入って直ぐに銀行業務の営業室が吹き抜けの空間として広がり、2階は廊下に部屋が連なるギャラリー。柱、壁、天井は白漆喰仕上げで腰壁、営業室のカウンター、階段の床などに大理石、板壁に高級な輸入ラワン材が使われており、銀行建築の豪華さが存分に表現されている。移築復元の技術も高く評価され、歴史的価値が認められて、2005年には国の登録有形文化財に認められた。カウンターの窓口はスチールの柵で内と外が隔てられていて、往年の外国映画に出てくる銀行のワンシーンを思い起こさせる。



移築復元では、鉄筋コンクリートの構造体が耐震性などを確保するために新たにつくられたが、当時の技術が備わっている部材は、可能な限り再利用した。

